

マザーハウス たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。

移送・出所される方は、必ずご一報ください。

2018

11 月号

表紙：湘南のバイク乗りさん

- | | |
|---------------|----------------|
| 2 理事長挨拶 | 22 健康相談窓口 |
| 6 特別コーナー | 22 Lovely DAYS |
| 8 出所者の声 | 23 行事予定 |
| 15 ささきみつおコーナー | 23 つぶやき！ |
| 16 育児日記 | 23 お知らせ |
| 16 塀の中のたより | |



このマザーハウスたよりは、公益財団法人日工組社会安全研究財団の助成により作成したものです。

理事長挨拶

今年もあと一か月となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

近況報告

十月十三日は、「受刑者のためのミサ」が実施され、二百名以上の方が参加してくださいました。当日はNHKが取材に入り、その様子を夕方のテレビで放送してくださいました。

今月号で、菊地大司教とチエノツウ駐日教皇庁大使のメッセージを掲載しておりますが、多くの人に読んでいただき、キリスト教会として実践していただきたいと思います。

また、TBS番組の「NEWSな二人」(十一月二日の深夜〇時五十分放送)では、ジャーニーズ事務所のグループ「N

EWS」に所属している加藤さんがマリアカフェに来てくださり、再犯防止についてのインタビューを受けました。

福岡の西南学院大学で、十月二十日、および二十一日に実施された「犯罪社会学会」に、マザーハウスの仲間たち五名と参加して来ました。テーマセッション「回復の道のり：対立から対話へ」それぞれ声を持ちよつて、新たな地平を切り拓こう」では、皆さんに体験談を発表してもらい、当事者の声を伝えることが出来ました。

私は、「社会復帰にあたり、刑務所の常識は社会で非常識、社会の常識は刑務所では非常識なのです。人として当たり前のことが出来ないのが刑務所であり、その学びが全くなのです。考えて行動することを奪っているのが今の刑務所です」ということをお話させていただきました。

回復に必要なこと

多くの受刑者が、社会復帰直前になると、不安になります。何故なら、孤独であり、自分のことを相談し、支援してくれる人がいないからです。

自分と徹底的に出会わないと、回復

は難しいです。自分がなぜ刑務所にいるのか？どうしてここにいるのか？何故なのか？何故、事件を起こしてしまったのか？そのことを深く考え、向き合い、悔い改めることから、回復が始まると思います。そして、反省するより悔い改めることが重要です。それは姿で現れるからです。その人の言葉ではなく、姿を通して、その人の状況が分かります。

回復に必要なのは、愛と赦し、そして、当事者の声を聴き、受け入れることです。そして関わることです。

今の矯正、処遇、保護は誰を更生させたのか？誰を回復させたのか？全く分かりません。彼らの話し合いの場には当事者が不在であり、当事者の声を聴くことをせず、自分たちの頭で物事を考え、決めているからです。上からの視線であり、当事者のことを考えているとは全く思えません。真剣に人と向き合うのではなく、自分たちで完結する一つの作業として再犯防止に取り組んでいるように感じます。当事者も人間であり、心や各々の思い、考えがあります。

再犯防止推進法や再犯防止計画は誰のためのものなのでしょうか。当事者不在で何をしたいのか、私には理解できません。

神様の導き

この犯罪社会学会に参加するにあたり、福岡にあるコレジオ志願院に宿泊させていただき、森山神父にはとてもお世話になりました。また、翌日、カトリック浄水通り教会にて、神父さんから紹介され、「今日の福音箇所は苦しんでいる人々のところだから」と、司祭が話す代わりに、ミサの説教のところで私がお話をさせていただきました。

その後、お世話になっているAさんの奥様と、今回、福岡に来た経緯を説明し、犯罪社会学会のプログラムを見せたところ、なんと、奥様の教え子の名前が載っており、それもマザーハウスとても深く関わってくださる教授の方で、その教授の授業で数回、私がお話をすることがありました。ちょうど前日には、一緒に食事をしたので、ビックリしました。

奥様がM教授にお会いしたいということ、M教授に「教授にお会いしたい方をお連れします」とだけ伝えて奥様を連れて、学会のある西南学院大学に一緒に来ました。すると、なんとその大学は奥様の卒業した大学で、しかも法学部にいたとのこと、そして私がお世話になっている法学部のH教授とも繋がりがあるということに、さらにビックリしまし

誘惑を入れないように 予防線を高く張る

受刑者の皆さん、どうか「刑務所に入るようなことをしてしまった自分」と出会ってください。一回だけでは足りません。今日から出所するまで、そして出所後も、毎日出会ってください。毎日自分を疑い、問いただしていただきたいです。

そして、誘惑は一瞬でも自分の中に入ることを許してはいけないことを覚えてほしいです。犯罪への第一歩は些細なものであったことを思い出してください。その些細なものに対して少しでも扉を開ければ、あつという間に扉は「じ」開けられ、二度と閉じることはできないと思います。

自分を徹底的に疑い、必要な予防線を、想像できる限り高く張ること。そして、万が一、その予防線を乗り越えた時にどうするかをしっかりと考えておくことです。パニックになつても思い出せるように、これらの決まり事はシンプルにして、毎日毎日自分に言い聞かせて、また、その決まり事に穴がないか、毎日吟味してください。毎日続けることが大切なのです。

例えば、性犯罪の場合は、「異性を見た時、また、異性が載っている雑誌

やテレビからはすぐに目を逸らす」「もし性的衝動を感じたら、すぐに信頼できる友人に電話して話す」と決めることです。この基準は高く思えるかもしれませんが、「二度と同じ過ちをしない」と固く決心するなら、これくらい高い予防線を張る必要があるのです。でなければ、また刑務所に逆戻りです。

祈り求める

もう一つ大切なことは、頼ることです。自分の力だけでできる、と思うことは、失敗の元だと思えます。同じ志を持つて毎日励まし合える友人や場所を見つけていただきたいと思えます。本当の強さは、過信ではなく、自分を疑うこと、そして正しい人を頼ることから得られると思えます。その方が、あらゆる事態に対処できるからです。

特に、キリストを信じる人は、「自分の罪は赦されている。自分は今、まっさらな状態である」ということを意識して、神様に回心の恵みを求めてください。回心は神様の恵みによつてしか生まれません。そして、悪を憎み、善いことを続ける動力は聖霊から来るものです。「神様、私に回心の恵みを与えてください」。「聖霊様、来てください」。「この短い

祈りには力があります。つらい時、負けてしまいそうな時、ぜひ祈り求めてください。求める者には与えられ、門を叩く者には開かれるからです（マタイ七章七節など）。クリスマスである、なしに関わらず、少しでも「祈り」のことを思い出したら、ぜひ祈ってみてください。長い祈り、綺麗な祈りが聞かれるのではなく、心からの叫びが聞かれるからです。

社会の皆さんにも祈っていただきたいです。「受刑者の皆さん、特に私と文通している〇〇さんに恵みがありますように」。

与えられたものを実践する

そして、皆さん、教皇様も言われていますが、柔和と謙遜を持つて、善を行うことを怠けないように、ともに頑張りましょう。私も悔い改めの日々です。刑務所でも、どこでも、近くの人を大切にすることはできます。マザー・テレサが言われた、「平和は微笑みから」は、どんな状況でも実践できます。

信仰を持つこと、善を行いたいと望むことは、恵みから来るものです。能力を持つこともそうです。「多く与えられた者からは多く求められ、多く任せられた者からは更に多く要求されるのである」

（ルカ十二章四十八節）とある通りです。能力を持てば持つほど、できることが増えれば増えるほど、そして信仰が増し加えられるほど、やるべきことは増えるのです。たくさん持っている人は、たくさん任せられるために、たくさん持っているのです。その能力、信仰は、人に見せるためではなく、人に実践するために与えられています。

そして、善を行いたいと願えば、恵みをいただきますが、悪に心を明け渡せば、すかさず悪が来ます（箴言十一章二十七節）。善の奴隷になるか、悪の奴隷になるか、どちらかです（マタイ六章二十四節）。悪はどんな隙でも見逃さないので、常に神様が守ってくださいるように祈りましょう。主の祈りにある通りです。「私たちを誘惑に陥らせず、悪からお救いください」（マタイ六章十三節）。

マザーハウスができること、 できないこと

最近多いのは、「女性の方と文通したい」、「文通相手を変えてほしい」、「身元引受人になつてほしい」、「お金を貸してほしい」という手紙です。当法人は、「女性と文通するための団体」でも、「文通を楽しむための団体」でも、「身元引受

けをするための団体」でも、「お金や物を援助するための団体」でもありません。

マザーハウスは、「社会復帰に必要なサポート」をさせていただくために存在しています。女性との出会いが社会復帰に必要でしょうか。些細なことで文通相手を変えてほしいと願う人が、色々な人と接する必要がある社会で人間関係を築いていけるでしょうか。刑務所で自分と向き合うことをせず、身元引受けのことが考えていない人、お金や物のことばかり気にかけている人が、社会復帰後に平穩に生活できるでしょうか。

文通や身元引受は、それ自体が目的ではなく、あくまで「社会復帰に必要なサポート」の一環で実施しています。文通は自分と向き合うために、身元引受は、必要と認められる人に社会の受け皿を整えるために、実施しています。

また、「フランチスコ事業でお金を取るのはおかしい」と言ってきた方もいます。「他の団体はすべて無料でやってくださる」と言うのです。それなら、その無料ですてくださる団体にお願ひすれば良いと思います。当法人では、無料で何かを差し上げたりすることはできません。

社会では、欲しいものには対価を支払います。それを、「支援される側だから、〇〇が欲しいから無料で与えてほしい」

と言う人が、社会復帰してやっていけるのでしょうか。マザーハウスは、必要なことはできる限り協力したいと思っています。でも、それ以外の「甘え」には応えることはできません。

無料でできることがあるとすれば、例えば、会費を払えない人へのたより発送などは、支援者の皆さんが寄付してくださっているからできています。毎月膨大なお金がかかりますが、今まで途切れることなく毎月発送できています。感謝です。他にも、事務所やマリアカフェの運営など、寄付してくださったりボランティアにいらしてくださったり、そういう応援してくださる方によってマザーハウスは成り立っています。本当にありがとうございます。年金生活の中からご寄付くださる方もいるのです。そして、毎日受刑者の皆さんのために祈ってくださいの方がいます。

「タダで受けたのだから、何でもタダで与えなさい」（マタイ十章八節）とある通り、善意で成り立っているマザーハウスは、いただいた善意に基づいて何でも惜しみなく差し上げたいです。でも、必要ないもの、更生の妨げになるものは差し上げることができません。文通相手の交換も、身元引受も、必要だと認められる時には行っています。

注意事項

また、文通ボランティアの皆さん、文通相手の受刑者に、切手や聖書を含む物資を送るのはご遠慮ください。物資の援助は、MLPの趣旨には含まれていないのです。一人の方が物資を送ると、噂が広まり、純粋に文通のみの交流が続いている他の文通ボランティアの方への要求がエスカレートしてしまいます。どうかご協力お願いいたします。

このことは、受刑者の皆さんも理解してください。文通ボランティアに物資を求めないでください。受刑者から求められても文通ボランティアは断り、文通ボランティアが送つてきても受刑者は断つてください。ただし、バスカードやメッセージカードは大丈夫です。聖書を送る場合も、マザーハウスに送っていただければ、事務局から受刑者の皆さんにお送りします。ただ、「誰々に送ってください」という指定はご遠慮ください。「この方はこういう方なので、送り先に推薦します」というお手紙は参考にさせていただきます。ありがとうございます。

それから、会費についてですが、当法人の定款では、「この法人の事業年度は、毎年四月一日に始まり、翌年三月

三十一日に終わる」となっており、途中から会員となっても、正会員費として五千円、準会員費として三千円を年会費として徴収させていただいております。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

最後に

あえて言わせていただきます。相手のことを考えることをしないから、犯罪をするのです。このことを忘れないでいただきたいです。

マザーハウスは応援で成り立っています。応援してくださる一人一人のことを考えていただきたいと思います。私には何もできませんが、皆さんのことをお祈りしています。私にとって、祈りは愛であり、実践だからです。

最後になりますが、私の著書『人生を変える出会いの力』（ドン・ボスコ社）を無事に増刷することができました。ありがとうございます。



特別コーナー

受刑者のためのミサ

菊地功大司教様によるミサ説教

マザーハウスの皆さんが主催をして、今日このイグナチオ教会をお借りして、共に祈る機会を与えられたことに感謝したいと思います。そして、多くの方々がこの受刑者のためのミサにあずかってくださり、お祈りを共にしてくださいということです、感謝申し上げます。

特に、このミサには、教皇大使ジョセフ・チエノットウ大司教様に来ていただき、ミサの終わりに一言「挨拶をいただくことになっておりますけれども、今日は大司教様のお誕生日で、七十五歳を今日迎えられていて、「是非ともこの受刑者のためのミサで」自分の誕生日をお祝いしたい」

とおっしゃってられました。フランシスコ教皇様ご自身のいくつもの、目に見える形での模範にならって、刑務所の中で罪の償いをしておられる方々の一人一人の救いのためにともに祈る、それを今日のお誕生日のお祝いとしたい、ということになりました。また、ミサの後ほど、お祝いを申し上げたいと思います。

さて、毎日の生活を私たちは積み重ねる中で、一つの事を、やはり、どうしても痛感してしまいます。それは、私たちがどれほど自分自身に対して、優しい目を向けているのか。同時に、どれほど私たちが他の人に対して、厳しい目を向けているのか。他の人たちの言葉や行いを見て、さすがに口には出さないものの、自分たちの心の中でどれほどそれを値踏みしていることか。

自分自身のことは、できる限り、多くの人たちに理解してもらいたい。自分自身のことは、できる限り、多くの人たちから大切にしてもらいたい。そう私たちは願っているのだけれども、他の人に対してはどうだろうか。他の人達に対しては、あつという間に、「だめだ」「良い」という判断を下してしまうことが、しばしばあると痛感しています。

テレビやインターネットのニュースを見

て、どこかの誰かのスキャンダルなどが報じられていようものならば、あつという間に私たちは、その人物がどのような人なのか、自分なりの判断を下してしまうことが、しばしばあります。でも考えてみれば、その、問題になっている対象の人物に、実は現実の世界では一度も出会ったことすらない、何も知らない人であるにもかかわらず、本当に限定された一部の情報しか自分の元には届いていないにもかかわらず、私たちは簡単に価値判断を下してしまいます。言ってみれば、私たちは年がら年中、人を裁いている、この世の裁判官となってしまうている。そう感じるものが特に、インターネットなどが普及して、情報が簡単に手に入るようになった、この近頃の社会の中でそう感じてしまいます。

知りもしない人のことをなぜ、百年も前から知っているかのように、「こういう人なんだ」と断定できるのか。考えてみれば、とても不思議なことだと思います。私たちはどうして、こんなに簡単に他人を裁いてしまうのか。私たちはどうして、思いやりの心を持つことができないのか。

教皇フランシスコは、その教皇職の初めから、神の慈しみについて繰り返し語ってこられました。ご記憶のように、二〇一五年の十二月からの一年間を、

「慈しみの特別聖年」と定められたほどであります。その特別聖年を告げる大勅書の中に、次のような言葉が書いてありました。「神の慈しみとは、抽象的な概念ではなく、我が子のごとで体の奥から沸き起る親の愛のように、神がご自分の愛を明かす具体的な現実なのです。実に、はらわたが千切れるほどの愛ということです」。これ（「はらわたが千切れるほどの愛」）は、「慈しみ」の原語で、本当にはらわたが千切れるくらいの苦しみの中から出てくるような思いです。

我が子のごとで体の奥から湧き上がる親の思いを持つて、他人を見ることができるのであれば、そこには必ずや、相手を理解しよう、相手を受け入れよう、相手を助けよう、とする思いが湧き上がってくるのだらうと思います。

実に、人類の誕生を描いている創世記には、私たちの命が創造された理由に、「人が独りであるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう」（創世記二章十八節）という、神の慈しみに満ち溢れた配慮があつたのだ、と記されております。教皇は、その大勅書の中で、この親のような愛をこう述べられています。「この愛は、深い自然な気持ちとして心から沸き起るもので、優しさ、共感、寛大さ、そして赦しの気持ちです」。

教会は、神が愛のうちに創造されたこの人間の命には、神の似姿としての尊厳があるのだと主張しています。そしてそれは、神ご自身が「良いものだ」と言われたと、創世記（一章）に記されています。全ての命は、どのような状態に、どのような状況に置かれていたとしても、そのすべての段階において、尊厳のうちに守られなければならない、優しさ、共感、寛大さ、そして赦しの気持ちのうちに、常に神の慈しみに包まれ続けなければならないと思います。

今日私たちは、受刑者のためのミサとともに捧げています。その中で、様々な側面からの祈りが必要だと思っています。過去を顧みながら罪の赦しを求めている人に善なる道が示されるように。同時に、被害に遭われた方々の心と体の癒しのために。そして、家族の方々の生きる希望のために。全ての人が、全ての命が、神の望まれる道を歩むことができるように。また、支援の手を差し伸べる全ての人のために。一緒に心から祈りたいと思います。

「ご存知のように、教皇フランシスコは、難民や移民の受け入れに消極的な世界に向かつて、「無関心の殻を打ち破って手を差し伸べようではないか」と呼びかけ続けておられます。同じことを今日、こ

のミサの中でも、呼びかけたいと思います。

教皇様は、「この『無関心の殻』を打ち破るための大切な行動には四つある」と言われました。それは、受け入れること、守ること、促進すること、共生すること、という四つの行動です。社会の中から排除され、忘れ去られている多くの人たち。その全ての人に対して当てはまる行動なのだろうと感じます。「私たち全てが、大なり小なり必ずや罪人であるのだ」、という現実をまず直視し、その中で、いかに互いを、慈しみを持って受け入れ合い、ともに善なる道を進むことができるように守り合い、生きる希望を失わないようにと促し、手を携えてより良い共同体を生み出していくことができるのか、改めて今日、祈りのうちに考えていきたいと思っています。



光りんさん

「混沌の匣（はこ）、時空を超えて」

ジョセフ・チェノットウ大司教様 によるミサ後の挨拶

愛する皆様、本日はマザーハウス代表の五十嵐弘志氏から、聖イグナチオ教会で「受刑者のためのミサ」を、東京の菊地大司教様（司式のもと行うこと）、そして、（私が）共同司式で捧げるようお招きをいただき、私は喜んでお受けいたしました。

そして、今ここに集われた神父様方や皆様と共に、現在日本で服役中の方々の元受刑者だった方々のために、心からのお祈りをお捧げいたしました。何よりも、皆様の兄弟として、現在服役中の方々をはじめ、そのご家族のために、私の心からのお祈りと友情を込めてご挨拶申し上げます。

さらに、私のこの思いと祈りが、今、苦しみや試練、困難の中にある全ての方々、精神的な病や病床にある方々の元にも届きますように。苦しむ方々の心に神からの慰めと安らぎが注がれ、また、周囲で献身的に奉仕してくださる方々を通して、主の慈しみの御顔が示されますように。どうか、今抱えている問題や苦しみが、より良い将来への夢や希望を押しつづすことがありませんように。

例え過ちを犯しても、それを自覚し、服役した後、人は更生改善し、社会復帰する希望を決して失ってはならないと思います。何故なら、人生は神からのかけがえない贈り物だからです。私たちは皆、自らの人生と同様に、兄弟姉妹の人生をも、深く尊重しなければならぬからです。

今日の「ミサを捧げるにあたり、聖書の「最後の審判」の場面を思い浮かべました。「あなたは、私が牢にいる時、訪ねてくれた」（マタイ二十五章三十六節）と、そこに記されています。教皇フランシスコがおっしゃるように、これはイエスが私たちみんなにお与えになった使命でしょう。そして特に、司教の使命であると言えるでしょう。司教は全ての人の父親のような存在であるべきだからです。

皆様、どうもありがとうございました。

H・Kさん



出所者の声

父親になって

☆九月に行われた、当業者スタッフEさんと理事長の対談内容です。

マザーハウスとの出会い

Eさん

自分が五十嵐さんと出会ったのは、今からもう九年近く前。出所したのが平成二十八年の五月六日で、満期日を迎えたのが五月五日。宮城刑務所に十四年三ヶ月入っていました。ざつくばらんに言いますと、殺人および業務上過失致死。あと、窃盗で捕まったこともありま

す。マザーハウスを知ったのは、進藤龍也牧師っていう、通称、「入れ墨牧師」の方（ヤクザから牧師になった方）がいて…そ

の前に「麦の会」っていうキリスト教の団体との繋がりもあったんですが…進藤牧師からマザーハウスを知り、五十嵐さんと文通を始めて。その中で、福島島の聖母訪問会のシスターと今、出てからも手紙のやり取りをしているんですけども、その方とももう十年近くになり、色々教

わることもあります。二十一歳の時に捕まりましたが、十代の時から悪い事ばかりをしていて…暴走族や、当時カラーギャングが流行っていたから、ギャングとか。組織の準構成員として事務所に出入りしてたり…。今は、マザーハウスのスタッフとして、色々な方と出逢い、他のスタッフと一緒に色々ボランティア活動…たよりの発送とか、コーヒの販売とか、お手伝いさせていただいて。自分が今置かれている立場…まだ籍は入れていないんですが、家族を持つようになって、子どもたちも今日来ているし、彼女も来ていて、守るべきものがあります。

刑務所に入るまで

Eさん

まず、自分の生い立ちから話をする、今三十九歳です。兄が二人いるんですけど、その兄二人も既に悪かったっていうの

もあるし、親とは仲が良かったんですが、兄とは良くなって、周りの環境も悪くて…学校の悪い仲間と遊んだりして、だんだん非行に走って。小学校四年生の時に、初めて友達数人と、文房具屋でボールペンを万引きしたのが最初の犯罪で、そこから中学にあがるにつれて、もつと非行に走りました。暴走族に入ったり、喧嘩したり…今考えると、とんでもないことばかりしていた記憶があります。

十五の時、中学を卒業してから、大工を養成する専門学校を希望していた。受験前に友達数人と原付バイクを乗り回していたんですけど、盗んだバイクだったので警察に捕まって、専門学校がダメになってしまつて。その翌日あたりに、父親に「ちよつとお前来てい」と。その時、母親が何か泣きじゃくっているから、「何かな」と思っていたら、戸籍謄本を突きつけられて、「実は母親は違う」と聞いて…何だろう、逆に、「何で今まで隠してたんだ」という感情が湧いて、そこ

からさらに悪さをするようになり、何回も警察の世話になって、親に迷惑かけて、周りの人に迷惑かけたりしてきました。

十九歳の時に、また暴走行為が何かで、自分の後輩と一緒に捕まって、そこで多摩少年院に入れられました。約一年で出られるところを、少年院の中でも仲間

と悪さをして、一年半で、二十歳の時に出てきて。その時に、父親と二人で飯を食ったんですけど、「実は、実の父親も違う」という話になって。自分も薄々気づいていたんですけど…ショックは受けなかったですが、ちよつと残念な気持ちになったというか。

今は、父親は身体が悪いので生活保護を受けているんですけど…自分も今生活保護を受けていて、来月切る予定なんですけど…実の子でもない子を三人も育てる、しかも男三人、しかもみんな悪いっていう。相当な精神力というか、普通、人の子は引き取れないんじゃないかなって今は思います。男の子三人も。そう考えると、申し訳ないです、育ての両親に対して。育ての母親は、今はもう連絡がつかないのですが、今でも申し訳ない。相当迷惑かけて、自分のために、背負わない借金まで背負わせたっていうのもあるし、それは今でもすごい後悔している。

育ての親父に、「そんな悪い事ばかりしている、いざれ刑務所に行くぞ」と言われていましたが、案の定、その通りになつてしまつて。二十一歳の時に、まず強盗致傷で…その時はカラーギャングをやつていて、路上の若い人に因縁つけて引つ叩いて、それで周りの人に通報され、



↑ 理事長が、千葉刑務所で購入した、腰に着けるタイプのスマートフォン入れ（愛用中）

捕まって、三か月くらい拘留所に入つて、執行猶予三年の懲役四年で出てきました。

それでもた、二か月後くらいに、本件を…。交通事故を起こして…今はもう無いと思いますが、偽造の免許を持っていた、それで乗っていたんですけど、無免許運転で、当時付き合っていた彼女と後輩一人を後ろに乗せていて、ちよつと出入りしていた組織の事務所に行くのに呼ばれてしまったんで、急遽、向かっていた時に、ある交差点のところで、標識を見ていなくて、右折してはいけないところを右折して。左から二人乗りの原付バイクが急遽飛び出してきたんですが、自分も若気の至りというか、それを「ちよつとからかつてやろうかな」って思つた時に、右折禁止で右折したんですね。

すると、反対車線の前方で、トラックの後ろからバイクが飛び出してきたんですが、それが自分は見えなくて、コンタクトを普段していたんですけど、その時は夜遅くて、十一時半くらいで、…気づいた時に急ブレーキを踏んだんですけど、車の右ライトにぶつけてしまったんですよ。で、バイクはそのまま走っていました。普通、バイクが走っていたら、まさか人間が乗っていないとは思わないですよ。自分も、たぶんバイクと一緒にそのまま行つたんだろうって思つて、そのまま右折したんですね。その時に、何か乗りに上げたんですけど、バイクの後ろに荷物を乗せていたので、その荷物が落ちたのかなと思つて気にしなかった。でも、結構十メートル先まで引きずつて、全然離れないから、自分も執行猶予を持っていたので怖くて、後部座席に乗っていた後輩に、「ちよつと見てくれ」って言つたら、「人が入っています」って。人が（荷物に紛れて）入ってたんですよ。

自分はそこで何を考えたかについて、先ほども言いましたが、執行猶予を持っていたこともあり、無免許運転、つまり偽造免許も持っているし、「捕まったらこれは間違いなく（刑務所行き）」っていう考えと、あとはパニックになつていて、「逃げるしかない」ってなつて。そのまま、

引き離すのに、車を前後して。その時に乗り上げてしまったんですよ、何回も。今考えると残酷なこと、想像がつかないんですけど…前後して四回目くらいに前に行つた時に離れて…その時に、助手席から何か、これも後で調書の時に交通課から聞いた話だったんですけど、助手席の窓の外からバンバン叩きながら、「やめなさい」とか言つてたらしいんですけど、自分は今もう無我夢中で真っ白になつたので、全然気が付かなくて。「逃げるのが精一杯」っていう頭だった。普通に考えたら、救急車呼ぶ、警察呼ぶ、つてなれば、交通刑務所で済んだのでしうけど、そのまま通報もしないで、自分の身勝手な言動で人一人を死なせてしまったんです。

それで、引き離した後に、車は組織の車だったので、その日は事務所の上の人に迎えに来てもらうことになったんですよ。事故を起こした道路は全部封鎖されてたらしいんですけど、車は駐車場に捨てたんですね。自分はいっぱいっぱいで、消化器をかけた。それで指紋が消えるんじゃないかって。本来だったら逆で、指紋が出ちゃうんですけど。パニックになつていて。それで当時付き合っていた彼女と身を隠して。後輩は先に降ろして逃がして。事務所の人間が迎えに来るまで身を隠したんですね。

そうしたら、サイレンがすごい鳴つていて、「これはまずいな、大ごとだな」って思いました。三十分くらい経つて事務所の人間が迎えに来たんですけど、その時に車の中で「何したんだ」っていう話になり、「人を轢いて大変なことをしてしまつた」っていう話をして、とりあえず事務所まで戻りました。で、間違いなく警察は来るだろうという話をして、その日は事務所で彼女と寝泊まりしてんですけど、結局、その後、警察署から「出頭しろ」って来ました。



湘南のバイク乗りさん
「スタンドグラス・C1500」返子」

その警察署は二回目で、三か月前か四か月前に起こした執行猶予の事件の時もそこだったんですね。管轄が同じで、で、組長と若頭と一緒に行って、警察署に拘留された。調べの時に警察の人に言われたことなんですけど、当時はまだ息があつたみたいで、そのまま逃走してないで、通報および救急車を呼んでいれば、助かつたんじゃないかっていう話を後ほど聞いて。今考えたら、昔の自分はおかしいんじゃないかって思うんですけど、やっぱり、逃げるの一心で…執行猶予を持つてる、捕まりたくない、パニックになつてる、頭の中真つ白…事故を起こすと誰でも確かにパニックになるんじゃないかって思うんですけど、その時、何回も前後して乗り上げているのが、すごいゾツとして、恐ろしいなつて思います。

その後、留置場に二か月くらいいてから拘置所に移されて、結構、検事調べとか、遅い時間までしたんですけど、業務上過失致死から殺人に切り替わつてしまつて。「未必の故意」って言って、自分は見えてなくても、同乗者に「見てくれ」って指示したら、それは見えているのと一緒っていうことらしいんですよ。

検事の調べをしながら日々を過ごして、うなされることもありました。夢の中に出てきて。留置場の時にも。裁判

の時も、証拠写真で、亡くなられた方の写真を見た時には、かなりのショックを受けたんですが…ちよつと言葉に言い表せないっていうか、うなされる…自分のやつた行為で寝れない時があつて、留置場ではほとんど寝れなくて。睡眠導入剤を飲んで寝たくらいなので。そういう中で、拘置所に移された時に、「自分どうなるんだろうな」っていう思いがありました。刑務所に行くっていう時に、育ての父親が面会に来たんですが、その時も、とにかく「どうしよう」「どれくらい懲役が打たれるのかな」っていう頭しなくて…確かに申し訳ないっていう気持ちはあつたんですけど…被害者のご家族にも…。

その人は結婚されていて、お子さんはいなかつたらしいんですけど、わざわざ毎回裁判に、その亡くなられた人のご家族が北海道から来ていて。

拘置所にいる時に、何回か弁護士を通して、手紙を出していたんですけど、もちろん被害者のご家族から返事は返ってこない。奥さんにも出してたんですけど、返ってこない。途中で、自分も「いいや」って思つて。言い方おかしいですけど、出さなくなつて。普通に考えたら返事は出したくないと思うんですけど…自分が逆の立場だったら、出さないだろうし…。

裁判の時、求刑が十五年三か月だったんですね。毎回毎回、被害者のご家族と奥さんが来てたんですけど、心苦しいっていうか、頭を上げられませんでした。何とも言えない気持ちですよね。申し訳ないって言つたら亡くなつた方が返つてくるわけでもないし…。申し訳ないっていう気持ちは今でもあります。自分の中では、忘れることはできないので。人が一人、命を失くしてる。これは一生、背負わなければいけないことだと思っています。

求刑十五年三か月受けたんですが、結局、身元引受人がいるっていうことで、判決が十一年三か月になりました。引受人は、知人と、知り合いの仕事の社長に頼んで…。執行猶予三年を持っていたので、追加で結局、十四年三か月の懲役を受けました。

刑務所に入って

Eさん

東京拘置所から川越少年刑務所に分類で…自分の身元調査とかをするのに行つて、二、三か月くらい過ごして色々学んだんですけど、そこから宮城刑務所に移管になった。自分は初犯なので…教護院一回、鑑別所二回、少年院一回で、刑務所は初めてだったので、どういうところ

なのか分からなくて、拘置所とか川越少年刑務所にいた時に色々周りから聞いていましたけど、宮城刑務所は大人の刑務所というか…LB（無期刑および執行刑期十年以上の犯罪傾向が進んだ者）を含むので、地元の宮城の方が多いんですけど、組織的な人も地元の人多くて、結構、長期の方が多くて…無期の方もすごいいるんですけど、その宮城刑務所で、自分はまだ二十二、三で、一番若いので十代が一人いたんですけど、その次くらいに自分が若かつた。当時は刑務所つて結構、怖いイメージがあつて…組織の人もいて…自分は二十代なので…。

色んな人がいましたけど、自分が行った当時は若かつたので、最初はなあなあで、やりつ放しで生活していたので、反省も何もなく。ただ過ごしていればいいやつていう、毎日でしたね。



光りんさん
「冬が来る前に」

五十嵐さん

私は岐阜刑務所っていう長期の刑務所だったんですね。じゃあ、宮城と岐阜どう違うのか。岐阜は漫画でございます（笑）。職員があんまりうるさくないんですね。何故なら、岐阜はちよつと、宮城よりもバージョンアップの人が多くてですね、何々組さんのトップの出身母体が愛知なんです。そうすると、そのイケイケどんな人が大体、岐阜に来るものですか。岐阜って組織の方が七割以上いるんですね。そうすると、職員も、そういうイケイケどんな人の方が強いものですか、あんまり言わないんですよ。

何故かって言うと、岐阜の刑務官はほとんど、看守っていうのから始まるんですね。で、看守長、そして看守部長になるんですけども、看守の段階で七年くらい経った人が岐阜刑務所の各工場の担当さんになる。そうすると、七年なものですから、無期の人はずっと二十年とかね、ベテラン勢がいるんですよ。すると、「お前より俺の方が刑務所よく知ってるんだ」ってなつて、刑務官をなめちゃうわけです。それでどういふことをやるかっていうと、組織のお偉方さんを工場長とかにつけて、工場の締め付けみたいなことをする。

宮城刑務所は、どちらかというと、初犯の方が結構いっぱいいるんですね。で、厳しいんですよ。例えば、共同室っていう所で、収容者が六名から何名かで一緒に生活するんですね。でも、順番で掃除をやるんですね。トイレ掃除とか、部屋の掃き掃除とか、拭き掃除とか。宮城の場合は、部屋長が、「先に入つたから、

今日、俺はトイレ掃除やらないからお前やれよ」ってすると、懲罰の対象になるんですよ。順番を勝手に変えちゃいけない。全員が平等にやらなければならない。だから、誰が強い弱いに関係なく、全員が毎週毎週、必ず決められた掃除をしなければならぬことなんです。それが岐阜では、ものすごくルーズ。

そして、皆さんもご存知のように、宮城は最近、被災されて…私のところに来た人間が言っていましたけれども、地震が発生した当時、刑務官は誰も受刑者の舎房には来なかったそうです。三、四時間経つてから、ようやく刑務官が来てそうです。その間、受刑者たちは、ドアをドンドンドンドン叩いてたんです。あれだけの地震があつて、部屋に閉じ込められて鍵が閉まっているわけですから、自分がどうなるかって、ものすごく不安ですよ。

でも、正直な話、刑務官も大変だと

思うんですね。やっぱり自分の家族とか

そういうのが…。なかなか、刑務所では…避難訓練とか色々やっていますけど、周知徹底ができていなかった部分がある。「死ぬかと思った」って実際に社会復帰した人が言っていました。

家族との関係について

Eさん

やっぱり、小さい頃は、何て言うんだろ。うな、甘えたかつたっていうのもあるし、もつと色々…接したり、お話ししたりしたかつたし、後悔は残りますよ。

先ほどもお話ししたんですけど、まず、地元はとにかくもう悪いのしかない。本当に先輩は組織に入る人が多いし。暴走族とか。でも、自分の中では、親とは良好だったんですよ。

確かに、育ての母親には、中学の時に二回ほど、手を上げたことがありますけど…手を付けられないくらい暴れるとかはなかったです。悪さはとにかくして、その悪さで手を付けられなかったの。要は、周りの付き合う友達…中学校、まあ小学校から悪いやつがいたので、先輩とか、環境が悪かつたので、どうしようもなかったですよ。

五十嵐さん

でも、同級生でもつとつていって、その悪い環境に入らなかった人間もいるじゃないですか。

悪い環境に囲まれていても、それだけではなくて、やっぱり何かのきっかけがあったから、そういう環境のそういう仲間のところに行っちゃつたと思うんです。

例えば、僕の場合は、家に居場所がなかったわけですよ。自分のおふくろが離婚して、おじさんおばさんの所に居たけれども、そこに自分の居場所がなかった。居場所があれば、おそらく、そういう環境には行かなかつたと思うし、母親・父親との、何でも言える間柄っていうんですかね、自分が悩んだこととか、そういう思いを言える、聞いてくれる人、自分と向き合ってくれる人がそこに居れば、僕は、悪い環境の方へ行かないと思う。

今だから言えることかもしれないけど、例えば、悪さをやるきっかけとして、自分の中で何かがあつたと思うんですよ。仲間がいた、仲間と一緒にいることが楽しかつたとか。仲間だから、自分の事を一番理解してくれる。その部分があつたから、そういうところに深く踏み込んでいったとか、あると思うんです。

社会復帰後の出会い

五十嵐さん

確か、E君が宮城刑務所にいた時に、「牧師さんになりたい」って手紙に書いてきたと思うんだけど。それで、社会復帰後のM市で俺に言われたよな、「牧師っていうのは、人のために命かけるんだ」と。「人のために命捨てられるんだったら牧師になれ」って。僕思ってたんだけども、よく「何々になりたい」って、受刑者は言うんですよ。でも、それって本当に自分の気持ちなのかなって思う。例えば、牧師さんになりたい、進藤さんみたいになりたい、とかね。本当に心から願っているのか。

で、そのM市で、E君はE君で色んな考えがあって生活していて…その中で、出会いがありましたよね。その一番大きな出会いって何だったんですか。

Eさん

彼女との出会いですね。子どもたちとも。

五十嵐さん

その彼女たちとの出会いの中で、自分の過去のこととか、やっぱり、隠しておくか、言うかって悩みますよね、最初。

Eさん

もちろんそうですね。自分は、付き合い前に、友達というかたちだったんです。が…もし、付き合ってから言ったら、絶対俺はダメになるなって思ってたので、もう最初から…確かに戸惑ってたんです。よ、言うか言わないか。だけど、いずれはたぶんバレるなって思って、彼女にも正直に言っておこうと。で、彼女に全部…今までの事、生まれた時、両親が違ふこと、犯罪、刑務所に入っていたこと、全部話しました。本人は最初、結構びっくりしていたっていうか、戸惑っていたみたいですけど。自分は、悩んだ末に言いました。

五十嵐さん

僕は、その「言う勇氣」が…自分の過去を隠して付き合うなんて、誰でもできると思えますよ。でも、その過去をさらけ出して、「自分はこういう人間だけれども」って言える勇氣が自分を変える第

一步だと思います。それができない人間は、変わらないんじゃないかと思えますね。だって、自分の本当の大切な人間に、言えないから。

それで、E君は、交際が始まって、彼女には子どもさんがいて、自分にとっては実の子どもではないじゃないですか。でも、自分の子どもになるわけですよ。自分の中で、受け入れるっていうか、「この子たちの父親に自分はなるんだなあ」って思うきっかけは何だった？彼女とは色んな話をしているとと思うんだよね、付き合いの中で。でも、子どもたちだって、いきなり、「この人パパよ」って言ったって、戸惑うと思うんですけど。

Eさん

最初、寄ってきたんですね、二人とも。人懐っこくて。もう一人、柄悪い人がいたんですけど（笑）、そっちにも寄って行っちゃってます。自分はこういう格好でチャラチャラしているんですけど、こっちに來ると思わなくて、それで色々遊んだりして、仲良くなってきた…その時は、M市のスタツフもいたんですよ、数人。フードコートにいたおばちゃん方もいて、よく交流していたんですね。

今、子どもたちは「パパ」とか言ってくれますけど、俺は別に強制的に「パパ」とは言わせないですよ。自然の流れでそ

うなりました。でも、最初は今に比べると子どもたちは暗かった気がするんですよ。最初はちよつと「うるさいな」と

は思いましたけど（笑）、だけど、毎日のように行っていたんで、だんだん「かわいいな」と…その時はもう、今みたいに仕事は全然していなかったんで。夕方来るじゃないですか、お、来た来た来たってよく遊んでいましたよ。

子どもとの交わり

五十嵐さん

昔の話なんですけど、自分は結構、子どもが好きでね、よく知り合いの人のところに行っていたんですよ。そしたら、その子どもが懐いちゃって、僕が行かない日は泣くらしいんですよ（笑）。何でものおじちゃん来ないのって（笑）。やっぱり、子どもって敏感に分かるだろうね。この人、ちよつと危ない人じゃないかな、近寄りたくなってると思ったら、その人に行かないと思う。

E君は今、教会に行っているじゃないですか。子どもたちの方が先に教会に親しみを感じたっていうか。

Eさん

そうですね。子どもたちの方がすごい、



河童さん

他の周りのお姉ちゃんとお兄ちゃんたちと、すごい親しみやすいですね。良くしてもらっています。この間、子どもたちが先に洗礼を受けちゃったんですけど（笑）、自分も来年の四月に、彼女と一緒に受ける予定です。

地域との関わり

五十嵐さん

今、子どもたちと奥さんと住んでいるけれども、地域の町内会とかあるじゃないですか。自分が元受刑者っていうことは、教会とか地域の人たちには？

Eさん

教会のお世話係の方は、全員知っています。マザーハウスの当事者だって。だけど、他の人は、まだ…全員に言う必要はないし、聞かれれば答えますけど。近所の人は、誰も知らないです。ただ、良くしてもらっていますよ。休みの日は掃除当番があるんですけど、結構、近所付き合いは良い方ですね。



H・Kさん

子育てについて

五十嵐さん

子どもとの関係はどうなの？結構、潔癖症だと聞いたけど。

Eさん

俺は潔癖症じゃないですよ（笑）。刑務所に入って知っている中では、アライグマのように、三十分も四十分も手を洗っている人がいましたが、それは潔癖症だと思っんですよ。蛇口を、石鹸使って、がーって。それも十分、二十分ですよ。俺はそこまでしないうです。

刑務所で食器洗するじゃないですか。潔癖症の人が洗って、すごい綺麗になっっているのになって思って、自分は食器拭きの当番だったので…でも、よく光を当ててみると、油がすごいんですよ（笑）。全然汚れが取れていないんですよ。そういう人が多いんですよ、潔癖症って。汚れが取れていない。ただゴシゴシやっているだけっていう。刑務所でノロウイルスが一時期、流行っていて。自分はそのからちよつと神経質になっちゃって。五十嵐さんは？

五十嵐さん

いや、俺はあんまり気にしない方…。

だって聖書に書いてあるじゃん。口から入るもので汚れるものは無いって。口から出るものが汚れるんだって（マタイ十五章十一節）。かみさんに怒られるけどな、「帰ってきたらちゃんと手を洗いなさいよ」って（笑）。

Eさん

自分は気にしないんですよ。子どもには「手を洗え」って言います？

五十嵐さん

かみさんは結構言うよな。俺はあんまり言わない、だらしが無いかもしれない。

Eさん

それ、うちでは逆なんですよ。俺が「手を洗いなさい」って言うんですよ。「うがいしなさい」って、帰ってきたら。だけど、彼女はあんまり言わない方なんですよ。俺がうるさいんですよ。

五十嵐さん

子どもは自由においた方がいいよ。だってイエス様は、「私のところに自由に来なさい」（マルコ十章十四節）って言う。でも、教会の人は、これダメ、あれダメって。あんまり色々子どもに言っちゃうと、子どもは嫌がると思うんですよ。確かに、しつけは大事だと思うんですけど。

れども、だって、二、三歳の小さい子どもが、教会に行って、「静かにしなさい」「これやっちゃダメ」「あれやっちゃダメ」なんて言われたら、子ども死んじゃうと思いますよ。

Eさん

そうなんですけど、俺的には、前も相談したんですけど、食事のマナー、言葉遣い、それから、挨拶。これは絶対に嫌なんですよ、しつかりさせないと。大人になつてから、社会に出るじゃないですか。出てから恥をかくのは自分だって、長女には言うんですよ。長女はもう小学校二年生なので、もうほぼ分かってくる。

五十嵐さん

それって、俺たちも直さないといけないよな。つくづく思うんだよ。やっぱり熱くなると、どうしても汚い言葉が出ちゃう、僕の場合は。特に行政の関係になつてくると、出所した人間に関してね、生活保護をぐだぐだにしていると、だんだん熱くなつちゃって（笑）。そうなつたら、これは子どもの教育上良くない、って分かるんだけど…自分からまず直さないとまずいよね。

確かベルギーかな、イースターの時に教会で告解をするんですけど、家族の場合、まず子どもに対してやるんだって。

お父さんお母さんは、あなたたちに対して、こういうことをして、「ごめんなさい」って。まず子どもたちに謝る。そうすると、今度は子どもたちが、お父さんお母さんに対して、こういうことをして「ごめんね」って謝る。

俺はそれを本で学んで、実際に自分もやりたいなと思うんだけど、自分のヘソが曲がった時に、どうしても当たっちゃうっていうか。いけないなあと思うんですけど、そういうの無い？その時、自分から「ごめんなさい」って言える？

Eさん

しよっちゆうあります。けど、「ごめんなさい」って言えないですね、なかなか。

五十嵐さん

俺は頭下げたことあるけどね、年がら年中じゃないけど。自分が悪かった時、「ごめんなさい」って。

Eさん

それって難しいんですかね？

五十嵐さん

「お前」って、どうしても出ちゃうことがあるんです。そうするとうちの長男坊がね、「パパ『おまえ』っていった」って、かみさんに密告じゃないけど（笑）、

言っんですよ。そうすると、かみさんがそこで、「そういう言葉使っていないんですか？」って言うって、「はい、すみません、ごめんなさい」って（笑）。素直に非を認めるっていうか。何回も言うてますけど、かみさんは強い方が良いですよ。本当です、これは。素直に「ごめんなさい」って謝ることができる。

Eさん

最近自分も頭下げるようになりましてたけどね、すみませんでした。まだ子育てするには、全然です。まだ勉強です。

言葉は悪いけど、自分とは別の人間じゃないですか。だから余計、難しいですよ。

五十嵐さんには言ったことがあるんですけど、自分には二十三と二十一の娘がいるんですよ。長女と次女が。籍は入れていないんですけど、やんちゃやっていた時に付き合った彼女との子で、やりっ放しだったの…。子どもはいたんですけど、ろくに育ててないので、全然育て方も…。

五十嵐さん

やっぱり子どもを育てるって難しいと思うよ。本当に、「これ」っていう答えが無い。子ども一人一人で全部違う。だから接し方や育て方も全部一緒っていうわけ

はなくて…だから比較的、僕は自由なんです。子どもを放り投げているわけじゃないんだけど（笑）。

それを最初に教えてもらったのは、キリストの学びをしていた時に、お世話になった森司教から、「子どもは教会で育てる」って言われたんですよ。初め、分かんなかった。子どもを教会で育てるって、色んな人がいるわけだから、子どもにとつて厳しいって思う人もいます…。でも、よく考えてみたら、色んな方々と

接して色んな方々から注意を受けたり、愛情をもらったりすることによって、たくさんのごことを学ぶんだと思うんですよ。

だから、マザーハウスたよりの発送作業とか、みんなと一緒にやる中で、子どもたちは子どもたちで色んなことを学んでいるんじゃないかと思う。ちゃんと、マザーハウスたよりの封筒に入れて、封筒のシールをはがして綴じてるんですよ。だからあんまりカッコしくない方がいいと思うんですよ。

Eさん

確かに、自分が小っちゃい頃って、そんなにうるさく言われてない気がするんですよ。三男だったし、甘やかされていた方なので。人生で三十九年生きてきて、親父にぶん殴られた一回だけです。育ての親父は、材木屋で大工の仕事もやっ

ていて、どこか遠い現場に行ってお土産を買ってくる時、必ず俺にしか来ないんですよ。お土産が。後の二人には厳しいですよ。しよっちゆう、勉強の時にぶん殴られていたらしいので、話を聞くと。

五十嵐さん

その割には、二人の子どもには厳しいじゃないですか。どうして？（笑）

Eさん

親の都合でいけないんでしょうけど、「これは嫌だから」っていう目線があるのかもしれないですね。それはやらなくていいけど、俺の中ではダメだからっていう目線で見ちゃってるから。歩きながら食べたり、くちやくちやしちやう…。

また刑務所の話になりますけど、刑務所って、くちやくちやする人いましたよね。俺は何回か注意したことがあるんですよ。逆切れされたけど。それで喧嘩したことは何度もあります、十四年間いて。たぶん、刑務所に入る前に、まず施設に入ってから、結構、掃除するじゃないですか。そこでもう身についてるんですね。

五十嵐さん

刑務所に行くと、何が上手くなるかって、掃除の仕方だと思いますよ。

Eさん

掃除は学びましたよ。だから、掃除は好きです。すごい人がいますよね、何か毛布の毛玉をずすと取っていたり…(笑)。

五十嵐さん

自分が、カトリックの信者として、子どもたちから何を学んだかつて、「委ねる」ことですよ。

「神様に委ねなさい」ってよく言うじゃないですか。子どもたちから学ぶよね。子どもたちは、おしめを変えるにしても、ご飯を食べさせるにしても、何にしても、「この人は私に対して悪さは絶対にしない」って信じているわけです、一途に。それって、そのお父さんお母さんに全て委ねているわけです。大人になった時、それはできないよね。色んなことが頭に浮かんじやって。

Eさん

そうですね。それは自分も学んでいます。



H・Kさん

(おわり)

わちきみつお

コーナー

敬天愛人

「待合場所は上野公園の西郷さんの銅像にしましょう」。

私は、東京台東区浅草で生まれ育ち、学生時代までそこを離れたことはなかった。地方から訪ねてくる人があると、いつも台東区上野駅近くにある西郷さんの銅像を待合場所にしていた。でも、日本史にあまり興味がなかった私は、西郷さんにもまったく関心がなく、幕末の維新の志士の一人だというくらいの認識しかなかった。

十年ほど前に鹿児島市で行われたカトリック・プロテスタント合同伝道集會に講師として招かれた時に、主催者の方から、「実は、西郷隆盛はクリスチャンだっ

* ブログ : <http://ixsasaki.ti-da.net/>

たのです」と言われてびっくりした。それがきっかけで、「西郷隆盛とはどんな人物だったのか? キリスト教禁制時代に、どうして彼はクリスチャンになったのか?」等に強い関心が湧いた。

そして、西郷隆盛について調べていくうちに、わずか二十数年間の「維新」という出来事が、日本の歴史において革命的な意義を持っていたことに目が覚めた。

内村鑑三はその著作『代表的日本人』の中で、西郷隆盛を第一人者として紹介している。「一八六八年の日本の維新革命は、西郷の革命であつたと言っているのではないか」とまで書いている。「数ある維新の志士のなかで、維新の運動を始める原動力である天の法にもとづき、運動の方向を定める精神を持っていたのは、西郷隆盛だけであつた」と言っているのである。

その精神とは、西郷隆盛が座右の銘にしていた「敬天愛人」である。聖書を要約すると、「心を尽くして天の父を敬い、隣人を自分のように愛する」という「敬天愛人」の一語に尽きる。これはモーセの十戒の要約でもあり、キリストの言葉の集約でもある(マタイ二十二章三十七〜四十節)。

「敬天愛人」を西郷は次のように解説している。「道というのはこの天地のおの

ずからなるものであり、人はこれにのっとて行ふべきものであるから、何よりもまず、天を敬うことを目的とすべきである。天は他人も自分も平等に愛したもうから、自分を愛する心をもって人を愛することが肝要である」(西郷南洲顕彰会発行・南洲翁遺訓)。

なんと、西郷は聖書を愛読してその精神を実践したばかりでなく、民衆に聖書を教えていたと言われる。日本最初のプロテスタント教会である横浜海岸教会で秘密裏に洗礼を受けていたという証言もある。



光りんさん
「希望を見つめる(オオカミ)」

明治維新の最高のクライマックスは、一八六八年（慶応四年）三月十五日の「江戸城無血開城」である。これは、官軍による江戸総攻撃の前日と前々日に行われた官軍代表・西郷隆盛と旧幕府側代表・勝海舟との交渉において、西郷の「攻撃取り止め最終決断」により実現したものであった。もし二人の交渉が決裂していたら、江戸全体が火の海となり、一般民衆を含む数えきれないほどの死傷者が出たに違いない。

すでにキリスト教の大きな影響を受けていた勝海舟は、咸臨丸でアメリカに渡った時には、オランダ語の讃美歌を日本語に翻訳し、また、しばしばキリスト教会の礼拝に出席していた。勝は、後に、アメリカ人宣教師一家を海舟邸に同居させるなど、クリスチャンを特別に優遇し、晩年にはキリストを信じる信仰告白をしている。

西郷隆盛と勝海舟の二人が維新革命の大立役者であったことは、世界の歴史を支配しておられる天の父が、日本の歴史に大きく介入してくださっていたしである。そして、維新の志士たちの多くがキリスト教の影響を強く受けていたことを考えると、明治維新こそは、徳川三百年のキリシタン迫害を乗り越えた、聖霊の働きによる日本最大のリバイバルの一つだったのではないだろうか。

理事長の奥さんによる

育児日記

ある日の夜、なかなか寝ないー君にイライラして怒ってしまったので、朝起きて、「君、昨日は怒ってごめんね。お母さん怒らないように頑張るから、怒っていたら教えてくれる？」と言うと、その朝幼稚園の用意をなかなかしないー君にイライラしていると、「おこつてーおこつてー」と連発され、「怒つてない！早く用意してくれる？」と言うと、「ほらっおこつてー」と、にやにやしながら指をさして言ってくるので、「怒るようなことをしているのは誰なの？」と言うと、「やっぱりおこつてー」と言われ、さらにイライラしている私でした。普段は私の言うことを聞かないのに、こういうことは忠実に守ります。

妹のKちゃんは、こちらの言っていることは理解していますが、まだ言葉が拙いです。先日私が買い物に行っている間に、友人がKちゃんに、「パパとママがいない時に窓に近づくと危ないよ。どーんって落つこちて死んじゃうこともあ

るんだよ」と言う、そのことを帰宅した私に伝えたくて、窓に誘導され、「ぱばままだーんしんじやつた」と、かなり端折って説明してくれました（笑）。

次女のRちゃんは、ハイハイで家中を探検しています。にこにこ笑顔がたまりますー！！



まいにち
たのしいな♪

塀の中のたより

―受刑者からのお手紙―

具体的な対策を考えなかったことが、今ここに居る結果に

H・Kさん

人は、どんなことでも、当たり前と思ってしまうと、その当たり前のことに対して「ありがとう」とか「申し訳ない」とか、人として大切な「感謝」する気持ちを忘れてしまうのだと思いました。特に、罪を犯し、収容生活を送っている私たちにとって、それは絶対に忘れてはいけないうことだと思つのです。

十人十色、色々な人たちが収容されている施設の中では、一番、人間関係で悩み苦しむ人が沢山いて、それによって自分と向き合えていない（自分と向き合

う余裕のない）人たちが多いと思います。社会での決まりやルールを守れずに、他人を傷つけてきた私たちが、理由が何にしろ、犯してはいけないと分かっているがらも、自分に言い訳をするように、罪を犯し、自由の無い生活を送る事を選んだ結果なのに、「あれが嫌だ」「これが嫌だ」と不平不満ばかりを言っていることに、何でそんな自分で自分を追い込んでしまうのだ、と思いました。

どんなことでも、最後に決めるのは自分自身です。誰かが決めるのではなくて、結局、決めるのは自分自身なので、自分が本気で変わりたい、社会人として普通に生活をしたい、と思うのなら、自分が「刑務所」に何をしに来たのか、それを理解し、そんな自分（これまでの自分）を変える為に、自分としっかりと向き合い、今やらなければいけないことが何かに気づくと思うんです。だからと言って、自分を追い込んだり、無理をしたりするんじゃないで、焦らずに、ゆっくりと考えて、少しずつ出来ることから始めていけばいいのだと私は思うのです。

これまで何度も収容生活を送る中で、「次は無いから大丈夫」とか、「もう絶対にしない」と思っているだけで、具体的な改善方法や対策について考えていなかったことが、今「刑務所」に居る

結果になっっているのだと思いました。結局、一日でも早く出所したいと、早く出ることを優先に考えていて、気が付けば、収容生活よりも厳しい社会で挫折し、また同じ生活、「刑務所」で生活する事になっています。

口で言うのは簡単ですが、現実はそのなにごくありません。それは、私自身、前刑で出所してから、家族の事、仕事の事、生活の事などの問題を抱え、甘い考え方だった私は、社会の厳しさを、身をもって知りました。そして、社会の厳しさに耐え切れず、また同じ過ちを犯してしまい、今の結果に至ります。人生は綺麗事ではないと、思いました。

それ以外でも、地震や大雨などの影響で被害に遭われた方々が、一日でも早く復興をと思い、一生懸命に活動をし、生きている姿を見て、罪を犯しながらも、衣食住があり、仕事もあり、病気になれば薬をもらい、国から守られている自分が情けないです。それを当たり前と思つて生活することが、どれだけ罪のあることなのかと考えさせられました。今はそれでいい、と思う人もいるかもしれませんが、社会はそんなに甘くありません。

私たち犯罪者も、社会に戻れば一人の社会人です。家族はいる人は、その家

族を養う為に、一生懸命に働いて、また、独り身であつても、自分の生活の為に仕事をして、生活を立て直さなければいけません。だからこそ、今回の収容生活を最後に、上辺だけだったり、嘘の自分で本音を隠したりした生活を絶対にしない、と心に決めて、ありのままの自分で、不安なことや心配なことを収容生活ですっきりと考えて、少しでも改善できることはして、与えられた刑期の中で出来ることをするように、今、生活をしています。

後悔はしたくないので、これまで出来なかつた、事件の被害者に被害弁済と謝罪ができたらと思ひ、口だけではなくて、今、弁護士さんを通して実行しています。



湘南のバイク乗りさん
「波乗り」

皆さんと出逢えた気持ち、私を色々なことに気づかせてくれました。本当に、信じていることが「元氣」を生むと、教えてくれました。人と比較しない、世間と比較しない、それが自分らしく生きられることだと教えてくれました。生きていくこと、生かされていることに感謝することがどれだけ大変で、大切なことに気づかせてくれました。

だからこそ、自分を信じて、どんなに辛くても、悔しくても、諦めずに前に進みます。自分を変える為にも、努力し続けます。

「人は泣きながら生まれてきて、死ぬ時も必ず誰かを泣かせる。だから、生きている間くらいは、たくさん笑っていたい」。今の私が大切にしていることです。

当所の運動会

〇・Ｔさん

昨日、当所は運動会が行われました！当所の運動会では、近くにある幼稚園が園児を連れて来てくださり、ダンスや組体操を披露してくれます。約十五分くらいの間ですが、当所の受刑者のほとんどが、この園児たちの姿に元気をもらい、励まされております。

一年に一回のこの行事のために頑張っている人も多いのが現実で…本当に心に活力を頂いています！

子どもつてすいですね！周囲の人間に「元氣」を与えてくれますし、笑顔にさせてくれますから！受刑者のために毎年来てくださるので、心から感謝です。幼稚園の職員さんだけでなく、園児たちの親御さんたち関係者のご理解やご協力があつてのことですので、関わる方々、全てに感謝しなければならぬと思います！この想いを忘れてはならない…と強く思うところです。

正直なところ、この園児たちのダンスや組体操のプログラムが、当所の運動会の「メイン」になっています！（笑）盛り上がりが一番大きくて…本当に最高です！昨日の疲れで体はクタクタですが、心だけは…スツキリ…しています。さすがに、五十歳目前の身としましては、体のあちこちが筋肉痛になっています。独特の雰囲気の中ですから、体も疲れるのかもしれませんが。練習とは違いますね！

何はともあれ、楽しい行事も終わったので、また来年に向けて体づくりをしていこうと思います！日々の生活も…自制し、前向きに努力を重ね、目標に向かって頑張っていこうと思うところです！

苦しい時間が 逆に濃い時間になる

M・Aさん

先日、工場対抗運動会が行われました。約一か月間、競技種目と応援の練習に、みんなが一致団結し、少人数ながらも工場一体となつて頑張つてきて、本番を迎えたわけですが、結果は最下位…。ほんのわずかな時間でしたが、練習してきた成果を出し、みんな団結して一緒になつて楽しめたことは、何よりも貴重な経験ができました。

また、運動会のクライマックスには、近所の保育園児による組体操が十五分くらいあつて、大人の集団の自分たちでさえ圧倒される演技に感動しました。運動会に、子どもたちの演技に、まさに「完敗」の一日でしたが、忘れられない一日になりました。

私自身、あと半年ほどの刑期になりましたが、今、こうして生活できているのも、周囲の方の支えがあつてこそだと思っています。受刑生活の中で改めて、自分の弱さと至らなさを痛感しました。

苦しい時間が、逆に楽しい時間よりも濃い時間になる。どんなことにも意味があるし、無意味になることなんて無い。

人間の鎖、つまり人間の輪を大事に、残された時間を大切に、感謝の心と思いを忘れず、生活していきたいと思っています。私に関わつてくださっている方々へ、「いつもありがとうございます」。

担当の言葉に救われる

H・Iさん

他施設の同じ受刑者の方の声を、気持ちを知ること、私自身、元気づけられることが多々あります。

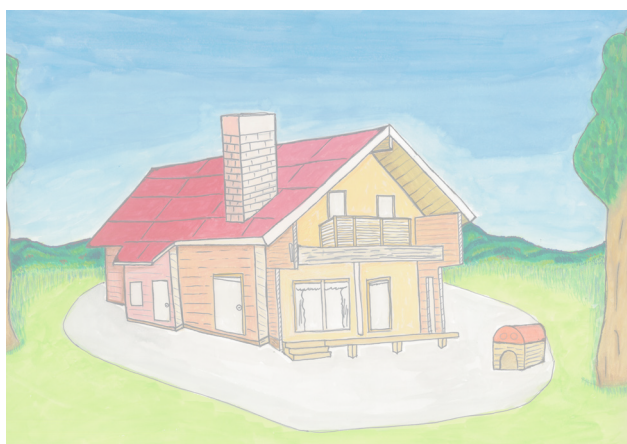
もともと、私はなるべく他人とのトラブルに気を付けて生活しているのですが、工場で何かトラブルがあると、ほとんど全てに私の名前が使われ、いつも嫌な気持ちにさせられています。なるべく中立的でいようとしますが故に、悩んでいる人の相談をされることが多く、そのことでいつも巻き込まれてしまっています。

今は、それでも、工場の立役としては一番古く、もうすぐで三年ほど立役をさせて頂いていて、何とか、二類の一等工で頑張っています。居室と工場の配食係もやらせて頂いています。

本当にストレスが溜まる毎日ですが、担当のオヤジ（刑務官）さんは、いつも

私の名前が出て、「勝手に言わせておけ、お前なら大丈夫だよ。分かてるやつは、ちゃんと分かてるはずだよ」とか、数カ月ぶりに私の名前が出た時は、「お、随分と久しぶりに名前が出たじゃないか。良かったな（笑）」などと言ってくれて、信用してくれているんだなあと救われることが多いです。

これからも、色々トラブルに巻き込まれるとは思いますが、ある意味、それが私の立ち位置、そういうキャラだと思ひ、我慢するしかない諦めてもいます。



雪兔さん

不満をぶつけて

自己満足する先に犯罪がある

虎の恋人さん

僕は現在、塀の中での人間関係に悩み、苦しんでいます。自分をどうやって奮い立たせて、その苦しみの壁を乗り越えるか。壁を乗り越えるために、我慢するために、周りは支えてくれても、最後は自分の気持ちです。

「我慢」とは、調べると、「精神的・肉体的に苦しい事があっても、意地で凌ぎ通し、弱音など吐かないこと」と、国語辞典にありました。人それぞれ我慢の限界があり、我慢の仕方も違います。

相手の意見を全く聴かない人、自分勝手な人、自己中心的な人、わがままな人、それぞれいます。人はなぜ人を妬み、憎み、怨み、嫉妬し、自分の不満をぶつけて自己満足するのでしょうか。その先に犯罪があります。自分の欲の為に人を傷つけて、命を奪って、被害者の家族はもちろん、加害者の家族にも心の傷をつけています。例えば切り傷なら、時間が経てば消えます。しかし心の傷は…。

僕の被害者も、事件から一年以上が経つても、「外が暗くなると、外へ出て一人で歩けない」と話していました。僕は

夜道で女性から現金を強奪し、包丁で女性を刺し、首を切りました。命は奪っていないと言っても、やっている事は強盗殺人、未必の故意（※確実に犯罪を行うおうという意図があるわけではないが、結果的に犯罪が起きても構わないと思う心理のこと）です。

事件から九年となり、残刑も三年少しです。しかし、僕の反省は充分なのか、もう二度と犯罪をせず、同じ過ちは繰り返さないのか、不安があります。

僕は事件の三か月前に、大切な人である嫁を末期がんで亡くしました。知り合った時にはもう既に病気であり、余命も宣告されていました。僕はアルバイトをしながら看病し、幸せでした。彼女のわがままは出来る限り聞いてあげましたが、しかし、正直、僕の精神・肉体は限界で、彼女に八つ当たりしたり、スロットを隠れてやつたりして、ストレスを発散していました。病気で死が近づくと、人はわがままになるのか、彼女は在宅看護を希望し、最後まで僕と居たいと言いましたが、それがどれだけ重荷だったか。僕は仕事を休み、彼女に希望通り睡眠薬を与え、死期を早めました。それでも彼女は、「私を想ってくれてありがとう」なのか、最後、僕の呼びかけに、僕の手を握って亡くなりました。

その時が初めての彼女の死に対する弱音だったと思うのです。その時に、最初に書いたこと（自分の不満をぶつけて自己満足する先に犯罪があること）を全て考えられていたら、自分の気持ちではなく彼女の気持ちを考えられていたら、僕は今、塀の中に入っていないですね。

投げやりになり、給料も全てスロットに使い、借金をしてまでスロットをして、自分で自分を苦しめて、我慢という壁を乗り越えられませんでした。

人生とは、この世に生きていくこと。山あり谷あり、達成感の喜び、失敗した時の挫折感、悔しさがあります。人生には、誰でも、苦しい時、悲しい時が必ずあります。そんな時には、辛い事ばかりでなく、それまでにあった嬉しかった事、楽しかった事、支えてくれた人の事を思い浮かべたら感謝の気持ちになり、少しは心が落ち着くのではないかと思います。

誰もが経験する過去からの旅立ち、人生を変える出逢い。その出逢いで人は変わる事ができ、一步を踏み出せると思います。過去と他人は変えられないけど、未来と自分は変えられる。勇気を出して一步踏み出すこと。結局は自分の意志、思いになりますが、誰に何と言われなくても、「できる」「変えられる」と信じることが大切なのだと思います。

刑務所の物価

北海道のOさん

地震、すごかったですよ。揺れましたね。深夜三時八分、飛び起きましたよ。今は所内の動作時限も通常通りに戻りましたが、余震と節電は続いています。

夕方六時〜九時のテレビも、七時〜九時になりました。夕方六時からのニュースが見れないのが残念です。でも、震災で途方に暮れている人たちのことを考えれば、私は幸せ者です。ただ、運動会が中止になったのは残念でした。皆、一生懸命、練習していたのに…（泣）。

半年間続いた酒害教育も、あつという間に終わってしまいました。教育で学んだことを社会復帰したら活かしていきたいと思います。

行進は、相変わらずできません（泣）。

書道クラブの許可も下りました。月に一度を一年間、頑張ります。私は字が汚いので、この機会に、少しでも字が綺麗になればと思います。

自主学習（習字）の許可も出たので、習字道具を揃えたいのですが、高くて手が届きません。どうして刑務所というところは、物価が高いのでしょうか？習字道

具の入れ物（ケース）だけで、二五〇〇円以上するんですよ。もう一度言いませうけど、ケースだけの値段ですからね。筆は一本、二一六〇円だし、全部揃えると、一万円を超えます。お金の無い私には、買うことができません。書道クラブで使っている習字道具を貸し出してくれればいいのに…と思います。

友人に叱咤された言葉

N・Tさん

今回で五回目の受刑生活を送る身で、もうすぐ七十になります。

私は、初めて理事長と会った時、大変失礼ですが、「なんだ」のおっさんは。善人顔して、綺麗事を言つて」と心で呟き、有難くなく、初めてマザーハウスに手紙を出した時も、「神だの何だのと馬鹿にして」と思い、私自身、夢も希望もなく、生きている事さえ嫌で、「なんとでもなれ」とふて腐れていました。そんな時、マザーハウスたより、百万人の福音、カトリック生活、等々の冊子を差入れてくださいましたが、「何なんだこんな冊子、何冊も」と思い、見ることもしませんでした。

しかし、数日後、何気に手に取って読んで、「イエス・キリストって何だ…イエス

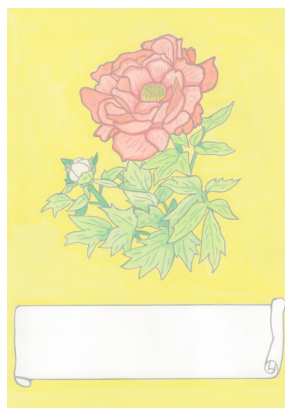
様の言葉と行い…イエス様はどのような人々と交わり、どのようなことをおっしゃり…」と、読むうち、イエス様の生い立ちをもっと知りたくなり、中学の同級生のK（クリスチャンで、A県でボランティアをしています）に、聖書やキリスト教に関する書物を送ってもらいました。

それらを読んでいるうちに、「何か自分の考えと違う。なぜなせ…」と自分に問うていると、私は自分勝手に自暴自棄に陥り、一人で悩み、一人で何でも解決しようとして一人でつまずき、悪環境の繰り返しで生活で人を信じることもせず、「どうせ俺は一人だ…」と腐っていたことに気づきました。

そんな時、KがA県からキリスト教関係の書物を持つて会いに来てくれました。私はKに昔のようにわがままを言つて、「俺はいつも一人だ、もう放つておいてくれ」と拗ねてみせ、彼は同情のような、あわれむような目で私を見て、「N（私の名前）、まだそのような気持ちで人生を歩んでいるのか、悔い改めろ！大人になれ！俺が今回会いに来たのも、Nの手紙にマザーハウスの支援のことが色々書いてあり、N自身も今までと違い、悔い改めたと書いてあったからだ。なのに、会えば昔のように考え無しの行動で…今までどれだけ皆が傷ついたか、まだ分から

ないのか」と言われました。

そして、「マザーハウスでも、俺に言つたようなわがままは通用しないだろう。俺がいるA県の教会でも同じような支援をしていて、Nのような『何々をしてくれ』『もっと俺の言うことを聞いてくれ』などと言ってくる人がいるが、甘えるな…！N、もし『支援は当たり前』『自分に必要なことはすぐに動いてくれ』などと考えているなら、間違いだ。相手の言うことを『ハイ、ハイ』と聞く支援などない…！親・兄弟でもあるまいし、Nが考えるような甘い社会はない…！社会は厳しい。社会人として生きていくために必要なことの一つは、常識だ。常識的な行動と、人が互いに気持ちよく過ごすための適切な態度が何かをよく考えなければいけない。社会では、自分の買ひ物は自分で負担している。それを、『あれが欲しい、これが欲しい』と私に便りを送ってくるが…個人的に今後、Nが悔い改め、更生していくのであれば、私は心から支援し、自立するまで惜しみなく力になる」と言ってくれました。



雪兎さん

この六か月間、毎日聖書を読み、祈り、悔い改めています。Kも毎月、キリスト関係の書物を差し入れてくれて、また、一緒に励ましの手紙も添えられており、「私は一人ではない」とつくづく身に沁み、私には新しい家族、主イエスによる兄弟ができたのだと思えるようになり、「生きる力」「未来への望み」が出てきました。今まで私は、無駄に過し、チャンスを逃して愚か者であつたと思い、この半年、聖書を読み、「実践あるのみ」と思って、充実した毎日を過ごしています。

他人の「モノマネ」から、

自分の習慣に

W・Hさん

今、私がやるべき事をやり、一日一日、薬物を止め続けて、「利他の心」を自分の糧にします。

そして、今まで培ってきた良い習慣は、気を抜くとあつという間に悪習となつてしまうこと。人格を形成するものは、日常の行動の繰り返しである習慣であること。自分のうちなる原因を改善しなければならぬこと。腐らない、焦らない、今は信用を得ること。苦しみも喜びも一時的なものならば、その一瞬を深く感じ、その日頑張れた自分を必ず褒め、

決めたことを続けるために具体的な何かを変え、変化を起こすために必要なものは全て自分の中にあることを認識すること…を忘れずにいたいと思います。

では、どうしたら良いか…。ここに、たより九月号ささきみつおコーナーの、「クレーの法則」を活かすことが出来ます。そこから私が行き着いたのは、「ごくシンプルな「モノマネ」であります。習慣や思考、行動パターンが、変わるために必要な要素なら、マネする方が手取り早い。「モノマネ」を馬鹿にできないのは、たとえ「モノマネ」であっても、続けていけば、そのうちに習慣になってしまふ。そうすれば、今まで気づくことのできなかった「飛躍するきっかけ」に気付くと思うのです。

話すことか

Nさん

私は、半年ほど前に、カウンセラーの方からカウンセリングを受けました。理由は、私が願っていたわけでも、何か問題を起こしたとか、精神が参ってしまったわけでもなく、普通に生活していて、突然、教育に呼ばれ、カウンセリングを受けることになったのです。カウンセラーの方は外部の人で、綺麗な女性の方でした。

正直、「綺麗な女性の方と話ができるなんてラッキー」と思いました(笑)。普段、女性と話をすることなんて、まずありませんからね。で、その美人カウンセラーは、「何でも自由に話してください」と言うのです。生活のことでも、趣味のことでも、何でもいいですよ、と。

それで私は、現在の生活から話し始めて、外での生活や事件に至った経緯、収監されてからのことや裁判、判決、服役、カトリックの神父さんとの出会い、自己の更生、家族や知人のこと、囚人のこと、趣味…と、話しに話しくまりました(笑)。とにかく、すごく聞き上手で話させ上手なのです。いつの間にか気づかないうちに引き込まれ、全てをぶちまけるかのように、正直に話しました。カウンセラーは丁寧に話を聴いてくれました。あつという間の一時間半でした。

職員さんに、「もうそろそろ時間です」と言われた時、「もう終わり？」とすごく残念に思ったほどです。しかし、とてもすっきりした気分で、何とも言えないリフレッシュ感、満足感がありました。そして、思ったのです。話すことによって、どれほど気持ちが楽になることか。話を聴いてくれる人の存在がどんなに有難いか。例えばですが、周りの人の話をもし、私が上手に聴いてあげられれば、その人

も少しは楽になったり、良い気分になったりするだろう、と思いました。何もできなくても、同囚の愚痴や趣味の話を聴いてあげることくらいはできます。それは、相手にとつても、また私自身にとつても、良いことだと思いました。「自分が、自分が」で、自分のことばかり話す人間ではなく、人の話に耳を傾けてあげられるように、努力しようと思いました。

また、たより九月号のA・Tさん(十四ページ「話すことによつて」)のように、悩みを担当さんに話すことも良いと思います。一番多い悩みは、やはり人間関係だと思えます。いつも必ず職員さんが動いて、問題を解決してくれるとは限りませんが、まずは相談しなければ前進しませんものね。実際、私自身も、人間関係の悩みを今までに何度か相談し、そして(その全てではないにしても)幾度も助けてもらいました。誰に何を話すのかももちろん重要なことですが、話すことから何かが変わることはきつと多いと思います。A・Tさんのお便り、本当にその通りだと思いました。

また、十五ページの「皆さんの声に励まされます」を読んで。私も過去に二回の懲罰を受け、現在の無事故は六年半です。そして私もまた無期です。とても頑張りましょう！

嬉しい報告

(同じく、)Nさん

〇刑務所では、電子辞書が購入できるようにになりました！大変嬉しい事で、皆大喜びです。本棚やロッカーなどに置ける量には限りがあり、本棚の辞書が小さな電子辞書になると、本当に助かります。しかし、誰でも購入・使用できるわけではありません。無事故を半年以上保つていて、許可学習「英語」の許可を得ることが条件です。許可学習の願い出は、願箋を提出すれば大抵、許可されますから、無事故を半年以上保つていて願箋を出せば、購入の許可が出るわけです。

購入できる電子辞書には、日本語と英語の辞書六種類が収録されていて、価格は四千円ほどです(外では二千円ほどで売っているようです。新聞に載っていました。外で買う価格の倍近くです。この点に関しては、皆ブーイングです！)。価格は高いものの、使用できるようになったことは大変喜ばしいことで、官に感謝です(今年の八月から許可)。

最後に、今日はとても良い天気です、すごく暑いです。昨日は、延期となった運動会の予備日でしたが、一昨日の午後か

ら天気が崩れ、夕方には雨が降り出しました。結局、その日の夕方の時点で中止が決定。〇刑は、二年連続で雨天のため運動会が中止となつてしまいました（涙）。残念。しかし、開催に向けて準備をしてくださった皆様には感謝です。

キリストと出会う

目指し始めたもの

K・Kさん

満期日まで七か月を切り、出所後の将来設計を考えていますが、今、僕の中で一つ目指している職種があります。それは「介護福祉士」「ケアマネジャー」「社会福祉士」など、社会福祉に係わる仕事です。今後、日本でますますニーズが高まる仕事であり、僕の中で、ある程度はプランも出来上がっているのですが、出所後は、先ほど挙げた三つの資格の取得を目指して頑張っていこうと思っています。

昔は頭の中をかすめもしなかった職種ですが、キリストと出合い、キリストの生き方に倣いたいと願う今では、僕の中で日々主張を大きくしています。

ケアマネジャーも、社会福祉士も、取得するのに、がむしゃらに勉強しなくてはなりません、努力を怠らず、目標に向かって励みたいと思います。

看護師 中谷先生による

健康相談窓口

排尿障害の治療法

こんにちは。木々が色づき秋色になりましたね。皆様、いかがお過ごしでしょうか？私は、十月から半年間だけ、新しい職場での勤務をしています。看護学生の教育をしています、二月に国家試験を控え、その対策に追われています。前回の続きで、排尿障害の治療法について、主要なものを選んでお伝えさせていただきます。

まず、排尿障害の原因には、様々な疾患が関連しています（これを原疾患と言います）。原疾患については、薬物療法を行い、それでも改善が見込めない時は手術療法となります。

男性に多いのは、前立腺肥大です。男性にのみ存在する前立腺ですが、年齢と共に肥大してしまい、排尿の道を邪魔

して尿が通過できない程までになってしまふことがあります。これが前立腺肥大です。すっきりと排尿ができずに、ちよろちよるとなり、排尿後は、尿道に残っていた尿が漏れ出ることもあります。この疾患は、進行性になりますので、放置しておいて改善する疾患ではありません。もしも、ご自身が思い当たる節がありましたら、医務への相談をおすすめします。

他に、骨盤底筋訓練という治療法もあります。

骨盤底筋とは、骨盤の底にある筋肉の集まりのことです。内臓や子宮、膀胱などを、本来のあるべき位置に収まるように下から支える、という役割を担っています。しかし、骨盤底筋が弱くなると、内臓や子宮、膀胱などの臓器が下がってきてしまいます。骨盤内の臓器で一番下側にくるのが膀胱ですので、常に内臓や子宮に押されている形になります。すると、少しの力がお腹にかかっただけで、膀胱を圧迫してしまい、尿漏れが起ります。

参考まで、左に骨盤底筋トレーニングを載せますので、やってみてくださいね。

①深呼吸をして、心と体をリラックスさせます。

②足を肩幅に開き、背筋を伸ばします。

③そのままの姿勢で、陰部全体をじわつと引き上げるつもりで、骨盤底筋を締めます（この時、他の部分に力を入れないようにします）。

④そのまま、五秒くらい力を入れたままにして、息を吐きながら力を抜きます。

☆慣れて来たら、十二〜十四秒くらい、締めるようにします。

☆力を抜いたら、四十八秒くらい、そのまま体をリラックスさせます。

⑤これを、一日十セットを目安に行います。

☆締めて緩めるのを一回とカウントすると、一回はおよそ一分、十セットで十分程度です。

理事長の奥さんによる

Lovely DAYs

当事者の皆さんに、「生きがい」とは何かを聞いてみた。Oさんは「聖書を学ぶこと」、NさんとKさんとーさんは「神様の為に働いていること」、Yさんは「Kちゃん（私の長女）の笑顔」、MさんとDさんは「幸せとは何かを模索すること」とのこと。まじめか？！

つぶやき！

☆神父さんが帰ってゆくのを見て、
君が「どへいくの？」と言っていた。「帰
るんだよ」と伝ええると、「かみさまの
おうち？」と聞かれた。その純粋な
信仰に心打たれた。（出所者Kさん）

☆七月号で気になったのは、ラブリ
ーデイズです。弘志さんがキャラーシヤ
ツを着るだけでも面白いのに、奥さん
も奥さんで、ツッコまずにそのままス
ルーって（笑）。普通なら、カジュアル
スーツかブラックスーツで行くところな
のに。おかげで、水分補給を、ふき出
してしまいました。（受刑者M・Yさん）

ご寄付ありがとうございます！

9月15日～10月14日の寄付金

合計：167,053 円

（内 愛のプリズム宣教基金：8,000 円）

（内 マリアカフェ基金：10,000 円）

別途：受刑者のためのミサでの献金 171,481 円
（本当にありがとうございました！）

行事予定

▼ 11 / 15

- ・ 10：00 ～ 東京学芸大学にて、講義
- ・ 22：00 ～ AbemaTVにて、
「声優とよあそび」に生出演

▼ 11 / 18 ミサ終了後～

- ・ カトリック春日部教会にて、
ミサ後に講演会
- ・ カトリック所沢教会にて、
ミサ後にマリアコーヒー販売

▼ 11 / 19 16：30 ～

- 大正大学にて、講義

▼ 11 / 22 18：45 ～

- 上智大学グリーンケア研究所主催による、
講演会「人生を変える出会いの力」

▼ 11 / 23

- カトリック神学院のザビエル祭にて、
マリアコーヒー販売

▼ 11 / 24 13：00 ～

- 日本カトリック正義と平和全国集会にて、
カトリック東山教会で講演会

▼ 12 / 1 14：00 ～

- 聖イグナチオ教会 岐部ホール 404にて、
対談「再犯防止について」（VIPプリズム）

▼ 12 / 4 13：00 ～

- 埼玉工業大学にて、講義

お知らせ・編集後記

☆受刑者の皆様へ☆

- ・『カトリック生活』『幸いな人』『百万人の福音』のうち、一人につき
一種類まで、毎月最新号をお送りしておりますが、「最新号を送るのは
この冊子にしてほしい」という希望がありましたら、お知らせください。
- ・上記3つの冊子のバックナンバーが余っておりますので、欲しい方は
お知らせください（例えば、「百万人の福音」の7月号より前のものが欲し
い」など）。在庫がある場合のみ、年内にお届けさせていただきます。
- ・フランス人男性との文通の件、年内に決定予定です。
- ・今月号からバースデーカードを同封しております（11月誕生日の方）。
- ・フランススコ事業部への依頼事のみが書かれたお手紙以外は、**必ず
封筒に「事務局」宛と明記してください。**封筒に「フランススコ事
業部」宛と書かれている場合は、事務局では開封いたしませんので、
事務対応（移送など）が反映されない場合がございます。
- ・入会申込書等にかかれた出所日に基づいて、出所日を迎えた方は、
その月のたより発送リストより削除しているの、出所が延びたり、たより
が届かなくなったりしたら、ご一報くだされば幸いです。
- ・ハロウィンの歴史を知りたい！と要望がありましたので…ハロウィンは、
古代ケルト人の秋の収穫祭や悪魔祓いの儀式がキリスト教に取り入れら
れ、教会が11月1日を「諸聖人の日」と定めていることから、前夜
の10月31日が「ALL Hallow's Even（諸聖人の日の前夜）」と呼
ばれたのがハロウィンの語源だそうです。でも、教会では諸聖人の祝日
は祝いますが（カトリックのみ）、ハロウィンはやりません（プロテスタントも）。

今月はぎゅうぎゅうで大分読みづらかったと思いますが、お読みくださ
りありがとうございました！来月号もお楽しみに！

マザーハウス編集局

マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）

＊製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX：03-6659-5270

メール：maria_coffee@motherhouse-jp.org（QR →）

価格：粉200g または 豆200g …… 900円

カフェドリップ10g（1回分）… 100円



☆継続して購入・販売してくださっている皆さま（順不同）☆

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック所沢教会／カトリック中和田教会／カトリック布池教会／カトリック東山教会／カトリック浜松教会／カトリック新子安教会／カトリック菊名教会／カトリック碑文谷教会／カトリック東仙台教会／カトリック春日部教会／クリスト・ロア宣教修道女会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／カトリック松戸教会／カトリック戸塚教会／カトリック桃山教会（平和環境部）／カトリック大分教会／カトリック西千葉教会／カトリック下井草教会／カトリック新潟教会／日本カトリック神学院／ドン・ボスコ社



☆ルワンダの祈り☆



ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

獄中POSTシリーズ

＊獄中ボランティアの方の絵画と文字を
ポストカードなどに印刷する企画です。

FAX：03-6659-5270

メール：motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org（QR →）

入手方法：会員の皆様や、ご寄付（5000円以上）くださった方々、

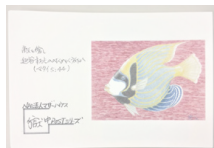
その他の機会等で感謝を込めて配布させていただく予定です。

（絵画＋言葉の組み合わせで、同じデザインは最大2枚のため、
デザインはランダムです。）

＊デザインの絵画部分を選んで購入されたい方は、講演会や郵送にて
販売しておりますので、お気軽にお問合せくださいませ。

（ポストカード／封筒は3枚で800円、便箋は30枚で800円）

ホームページ：https://npo-motherhouse.amebaownd.com/（QR →）



マザーハウスたより 11月号

2018年11月15日発行 発行責任者：五十嵐 弘志

〒130-0024 東京都墨田区菊川 1-16-17-102 NPO 法人マザーハウス



↑ 理事長 facebook

↑ 活動日記ブログ

↑ MLPのメール

↑ オンラインショップ

ラウレンシオ（便利屋業）

＊元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、

掃除などをさせていただきます。お見積もりは無料です。

TEL：080-4614-8508

FAX：03-6659-5270

メール：lawrance@motherhouse-jp.org（QR →）



古本募金（きしゃぽん）

＊書籍やDVDを下記送り先にご寄付いただくと、マザーハウスに還元されます。

送り先：〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916

（マザーハウス事務所に送らないようお気を付けください）

TEL：0120-29-7000

Web コンサルティング

＊WEB解析士マスターの資格を持つ当事者スタッフが、サイト制作から解析、
マーケティングまで一貫したコンサルティングをいたします。

メール：sepi@websepi.com（QR 右→）

ホームページ：http://websepi.co.jp/（QR 左→）



ホームページ ↑ メール ↑

カウンセリング

＊当事者やご家族の方を対象に、当事者スタッフが、実務に役立つ専門的
なカウンセリングを行います。

メール：iwazakifuusui@gmail.com（QR →）

価格：30分5000円より

ホームページ：http://profile.ameba.jp/fengshui0708/（QR →）



お問合せ

いつも本当にありがとうございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL：03-6659-5260

メール：info@motherhouse-jp.org（QR →）

ホームページ：「NPO マザーハウス」でご検索ください。（QR →）



☆ご支援☆

口座名：特定非営利活動法人 マザーハウス 【トクヒ】マザーハウス

郵便振替口座：00170-0-586722

みずほ銀行：新宿支店 普通口座 2376980

正会員：一口5000円（年会費） 【獄POSミニセットをプレゼント】

賛助会員：一口3000円から 【獄POSポストカードを1枚プレゼント】

社会復帰支援：ご寄付 【5000円以上で獄POSミニセットをプレゼント】

☆洋服等の物資の送付先：〒348-0061 埼玉県羽生市稲子 36-5

（担当者：江口 TEL：080-4057-2518）